

「大好きな着物で、まちづくりに貢献したい」と話すのは、岩村町在住の秋田桃子さん。昔ながらの日本髪と着物姿で、市内のさまざまなイベントに参加している。

秋田さんは愛知県出身。「もっと地域に密着できる仕事したい」と感じていた頃、友人から恵那市の高齢者介護施設を紹介された。地域の人と温かく交流しながら働ける場だと感じ、勤めていた企業を辞め転職を決意。「考えるよりも先に行動する性格」と言う秋田さんは、市の空き家バンク制度で出会った築200年の古民家へすぐに移住を決めた。祭りなどのイベントだけでなく、普段から着物姿で過ごす秋田さん。もともと江戸時代の文化が好きで、一度日本髪を結んでもらう機会があり、それ以来病みつきになってしまった。

「着物は着ている人の性格や生き方が分かるもの」だと言う。昔の人の知恵や工夫が詰まった作りになっており、「着物はとっつきにくいと思う方もいるかもしれないけど、着

学ぼう伝えよう
輝く
恵那人
129



着物姿でまちを笑顔に
日本髪と着物姿で景観に花を添える

□プロフィール

平成24年に愛知県から移住。福祉施設に勤める傍ら、着物姿でまちを宣伝する「岩村ふるさと小町」としても活動。



恵那で輝いている旬な人を紹介します

岩村町本町
あきた ももこ
秋田 桃子 さん 38歳

てみるととっても機能的なんですよ」と絶賛する。

着物と日本髪で活動する団体「岩村ふるさと小町」の代表としても活躍。「人が景観になるまちづくり」を目指し、祭りや催しに彩りを添えたり、着付けや髪結いを身近に感じてもらいための教室を開催したりと、精力的に活動している。城下町に溶け込んだ着物姿は、まるで江戸時代からタイムスリップしてきたかのような。着物がきっかけで知らない人から声を掛けてもらうことも多く、着物の効果を感じてうれしくなる。「大好きな着物を着ることで、自分もまちも笑顔になれたら」という思いで、日々普及に努めている。

四季の移り変わりや、土地や人の温かさを肌で感じられる岩村が大好きと言う秋田さん。「移住者だからこそ分かるまちの良さを、市内外の人に伝えていきたい」とほほ笑んだ。



▲道行く人も振り返る小町の着物姿

健幸都市を宣言

NEWS&
6月7日
TOPICS



まきがね公園一帯で開かれた「健幸フェスタ in えな」のオープニングイベントで本市は健幸都市を宣言しました。市を挙げて市民の健康寿命を延ばす取り組みを進めようというもの。会場では宣言文の書かれたプレートを除幕し、宣言文を唱和しました。

食を通してリサイクル学ぶ

NEWS&
6月5日
TOPICS



長島小学校の3年生が、有限会社東海バイオの実験農場で大豆の種まきを行いました。長島小では環境学習の一環で同社と協力し、給食の残りの堆肥化を15年続けました。ことしからは有機肥料を使って栽培した大豆でみそを作り、五平餅に付けて食べる取り組みを行います。

コミュニティーで防災減災

NEWS&
6月18日
TOPICS



市役所で地区防災計画策定説明会が開かれ、市内13地区の代表者ら約100人が出席しました。兵庫県立大学防災教育センター長で地区防災計画学会長の室崎益輝教授が講演し、二つの大震災の経験を教訓に、隣近所のコミュニティーによる共助が欠かせないと訴えました。

こども手帳500冊を寄贈

NEWS&
6月12日
TOPICS



公益財団法人日本公衆電話会岐阜支部が、自ら発行する「こども手帳 ぼくも、わたしも社会の一員」500冊を寄贈に市役所を訪れました。B6判、約100ページで、犯罪や災害から身を守る心得やネットの正しい使い方などが分かりやすい文章と絵で掲載されています。

中学生が主張、周りを笑顔に

NEWS&
6月20日
TOPICS



市少年の主張大会が明智かえでホールで開かれ、市内8中学校の代表13人が、人との関わりや体験を通して感じたこと、考えたことを5分にまとめて発表しました。最優秀賞は恵那東中学校3年の近藤里奈さん(写真)。大会の様子は7月15日からアミックスで放送されます。

許さない不法投棄に監視の目

NEWS&
6月19日
TOPICS



市内13地域から推薦された各2人、総勢26人を不法投棄監視員に委嘱しました。過去の不法投棄発生場所の定期的なパトロールや不法投棄を発見した際の市への情報提供などを行っていただきます。任期は平成29年3月31日まで。